

## 第5回甲府リノベーションまちづくり構想策定委員会 議事録

【日時】平成28年12月20日（火）18:00～21:00

【場所】甲府市役所（1階）市民活動室

【次第】

1. 開会
2. 講演（馬場 未織氏）
3. 骨子の説明
4. 構想策定委員会
5. 閉会

【出席者】（順不同、敬称略）

青木 純、安達 義通、上杉 隆昭、大木 貴之、鯉淵 崇臣、五味 仁、土屋 誠、成澤 治子、宮川 大輔、吉田 陽祐

【欠席者】小林(青木) はるひ、小野 元嗣、川上 明彦、堀切 春水、依田 友紀

【議事要旨】

1. 開会	
青木委員長	<p>（青木委員長より）</p> <p>市民方の“ものさし”として、提言したものが構想である。ただ、構想が全てではなく、構想を基に、実際に市民が実現していく活動こそが大事。</p> <p>今日は暮らしをフォーカスした話を、馬場美織さんにしていただきたいと思い、呼びました。</p> <p>「暮らし」は特別なことではなく、すぐにできることなので、暮らし方に共感する人がいると新しいライフスタイルが作れる。馬場さんの取り組みは、「二拠点居住」で東京と週末は南房総で暮らしている。自然の中で学び、地域の方との繋がりを地道に作り、一つ一つ乗り越えて、どういう暮らしをしてきたのか、お話をいただく。</p> <p>実際甲府は、人口が減っている。これから先、どういう暮らしがあるのか、暮らし方のヒントになればいいと思います。</p>

## 2. 講演

馬場氏

(馬場未織氏より講演)

本：『週末は田舎暮らし』を2年前に書いた。

この本には、なぜ「二地域居住」を始めたきっかけなどが書いてある。

→きっかけは・・・息子の生き物への興味、図鑑の知識を実際に見てみたい、などの欲しい知識を与えるため。

「二地域居住」にあたっては、東大の岡部先生曰く、  
都市：田舎=3：4が理想とのこと。

今の私は、東京：南房総=5：2→3：4へ もうすぐ10年経過

「二地域居住」とは・・・

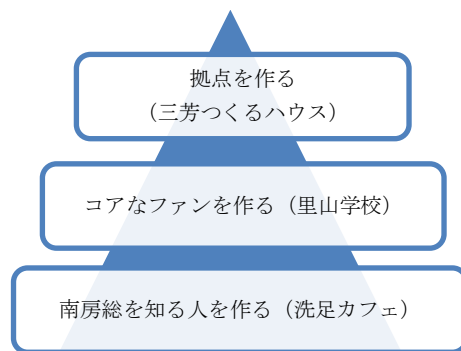
(別荘とは違う部分は、) 当該地域との一定の関係をもつこと

### 【活動内容】

NPO法人南房総リパブリック (かつての三芳村)

(目的)

観光と定住の間にある様々な「南房総の暮らし」を広め、里山環境を守っていく活動。



○<sup>せんぞく</sup>洗足カフェ (現在は移譲)・・・南房総を紹介するために

日替わりシェフ制、月～日曜日、昼・夜で交代 (毎週14組)

東京拠点の南房総のアンテナショップ (野菜は直送)

○里山学校 (家の裏山)・・・南房総と繋がりを作るために

里山環境を体験しながら深く学び、楽しむ、自然の学校。

○三芳つくるハウス・・・南房総に拠点を作るために  
ビニールハウスを使ったワークショップ、  
D I Yでエコリノベーション

○「二地域居住」でできること  
・誰もができることを増やす  
・「豊かさ」を共有すること

#### 【「二地域居住」の極意】

- 1、知ろうとする・・・体感と相対的視点を合体させる  
・知識を増やすことも大事だが、そこにあるものに寄って知ろうとする姿勢が大事  
・「名を知るは愛の始まり」というように、知識があればただの雑草が宝の山

⇒人生を楽しむ方法なのでは？

- 2、自分が楽しむ・・・親が楽しむことが大事  
→子どもは親の本気を見ている
- 3、決め付けない・・・想像の力の糧、他者に対しても
- 4、自分で決める・・・人間中心の世界から、  
人間以外から見る世界

◎南房総の好きなどころは、どんな人も、生まれてから、年をとっても、ずっと安心して住めるところ

田舎には弱者（認知症のお年寄り・知的障がい者・貧乏な人）が多く、都会に出て来られない。でもみんな幸せに暮らしている。

「二地点居住」の課題は、どうやって共存するか？

⇒マイナス面を見る（ダメだしをする）のではなく、プラス面を見ていく（好きなどころを上げる）ことで上手く回る。

これからも、「二地点居住」を考えながら、考えることをやめな  
いで取り組んでいきたい。

以上で講演会は終了した。

青木委員長	<p>都会には、意外と居場所がない人が多いから、洗足カフェの取り組みはいいなと思った。ただ、実際、大変だったと思う。</p> <p>「二地域居住」の極意は“居住”の中でも大事だと思う。</p> <p>手間暇・調べる行動力・挑戦など、大変なことが多くあったのではないか？</p> <p>実際、甲府に来てみてどう感じたか？</p> <p>会場では何か質問あるか？</p>
馬場氏	<p>「二地域居住」の極意は限られた時間の中で、濃い時間を過ごしたいと思い考えたこと。</p> <p>大変なこともあったとは思いますが、今は充実している。</p> <p>お金持ちのまちだと感じた。歴史や文化があるものが多い。</p> <p>山に囲まれているのに、文化のにおいがする。</p> <p>そこが羨ましいと思った。</p>
五味委員	<p>南房総を決めたきっかけは何ですか？</p> <p>田舎に住み、仕事で都会に行く人はいるが、逆は初めて。</p>
馬場氏	<p>南房総も田舎。甲府の方がよかったかと思う。なぜなら、二地域居住者にとって晴天が勝負。年間降雨量が少ない。</p> <p>甲府は「二地域居住」しなくても、コンパクト。</p>
青木委員長	<p>今日、愛宕山に昇ってみた。すぐ山に行けるような環境に住んできた成澤さん、吉田さんとはどうか？</p>
成澤委員	<p>甲府に来たら、愛宕山の入り口まで歩いて5分で着く。</p> <p>子ども達も気軽に遊びに行けて、近所のお年寄りも体力作りをしている。そんな環境は素敵だと求めてくる人もいる。</p>
吉田委員	<p>福島出身で、東京で生活してから甲府に来たが、自分には田舎が合っていると思った。田舎が人間らしいと感じた。</p> <p>東京と半分半分で生活できるのはすごいと思った。</p> <p>青木さんは、田舎に魅力を感じますか？</p>
青木委員長	<p>仕事で日本全国に行きますが、それぞれの都市で魅力を感じます。一緒にまちづくりをするだけで、その人たちの人柄を知ることができる。</p> <p><b>「ただいま」と言える関係</b></p> <p>旅をするだけの人には感じられない関係性だと思う。</p>

馬場氏	<p>これまで、田舎は愛を育む場所を作ってこなかった  →田舎は子育ての場として使われない  →接触頻度が低い、出会いをあきらめている  人離れの要因だと思う。だから大事なことだと思う。</p>
青木委員長	<p>甲府は田舎なのか？都会なのか？  山梨の中だと都会、東京に比べると田舎  甲府は自然があるから、ちょうどいいのかなと思う。  では、どうやって『甲府』を伝えていけばいいのか？  まちづくり構想の骨子を作る必要があったので、これから甲府市の角田さんより説明してもらいます。</p>
3. 骨子の説明	
甲府市 角田	<p>(甲府市角田より)  <b>【甲府市の課題】</b>  若者・子育て世代の流出  <b>【前回構想委員会から出たキーワード】</b>  自然、食・文化・歴史、人、挑戦、滞在、教育・子育て、暮らし、その他  <b>【テーマ】</b>  健康で子育てがしやすく暮らしに豊かさを感じるまち  <b>【ターゲット】</b>  山紫水明の環境を楽しみながらまち暮らしがしたい女性  →甲府らしい、ライフスタイルを生み出す  <b>【エリア】</b>  甲府盆地を中心に、周辺の潜在資源（自然・農産物等）を繋いで、新しい産業・雇用・働き方を生み出していく生活。  →新しいツーリズム産業として、アウトドアライフ産業、新しいレジャー産業、健康・体験型産業  ・「職」「住」「遊」が近接している。  ・健康的に歩いて暮らせる。  ・首都圏や県内にアクセスが良い。  ⇒新しいライフスタイルが生まれる。</p>

4. 構想策定委員会	
青木委員長	<p>何度も素案を作り直して来たが、実際リアリティーがあるのか？ もっと肉付けが必要なのか？</p> <p>テーマは長いが、あえて伝えたいことを全て盛り込んでみたが、 どうか？感想や意見をいただきたい。</p> <p>まずは、全体のテーマ「健康で子育てがしやすい、暮らしに豊かさを 感じるまち」という大きなコンセプトについて意見を聞かせてほしい。</p>
鯉淵委員	<p>「豊かさ」の定義はそれぞれ。</p> <p>都会の豊かさ、田舎の豊かさ、甲府は都会でも、田舎でもない中途半端なまち。</p> <p><u>きっと中途半端の、よく分からないところに軸があって、その軸に甲府の豊かさがあると思う。</u></p> <p>さっき、成澤さんの読んだ作文の中に、甲府の豊かさがあった気がするから、それを簡単に共有できないかと思った。</p>
青木委員長	<p>どの都市においても豊かさの受け止め方は色々あっていいと思う。ただ、まちづくり構想は、1つの“ものさし”であるから、解釈にズレがあっては、あまり喜ばしいことではない。</p> <p><u>ただ、市民に説明した時に、多様な受け止め方があるはずだから、それを少しでもシャープにできればいいと思う。</u></p>
上杉委員	<p>そもそも、今回の骨子テーマの他に、どんな案があったのか？</p> <p>どういうまちを作っていけばいいのか、これから肉付けをするのは分かるが、今のテーマではイメージが湧かない。</p>
甲府市 角田	<p>当初は委員さん方の意見を広く拾い、色々な方が受け取りやすいコンセプトにしたため、甲府じゃなくてもいいものになってしまった。ただ、都市計画課題に基づいて、<u>どこに向けて進むかを改めて考えた。</u></p> <p>案としては、トレジャーがあるまち、お宝があるまち、美食なまち、発酵のまち</p>
青木委員長	上杉さん自身で具体的に何かあるか？
上杉委員	この構想は、最終的に建物やストリートなどを作って人が集まるということを目的としているのですよね？

<p>青木委員長</p>	<p>そうです。</p> <p>甲府を甲府だけで捉えずに、1つの都市圏として捉え、  <b>どうやって実現していくか。</b>  <b>どうやって地域資源を活用していくのか。</b>  また、分解したコンテンツをつなぎ合わせて、  <b>新たな産業を作れないか。</b>ということ。  以上のことをこの場所で話し合いたいと思うし、ここが大事な部分と思う。  最終的に、誰もが理解しやすいキーワードで伝えようとしたときに大事なものは、中身の部分で、  <b>どうアプローチするのか？</b>  このキーワードが入っていた方がイメージしやすいのか？  そう考えたときに、今回の案も1つではないかと考える。</p> <p>テーマから考えると難しいので、キーワードから考えよう。  <b>新たなツーリズム産業というキーワードについてどうか？</b></p>
<p>大木委員</p>	<p>ワインツーリズムを行っているのは、ワインを応援するために取り組んでいるのではなく、<u>自分が弱者と自覚しているから</u>、生き残っていくためにはどうすればいいか考えた結果である。  今回のテーマで言いたいことは、例えば、Jリーグで活躍するとヨーロッパに引き抜かれるように、甲府で育った子たちが、東京の大学に行くのは仕方がないことで、どんどん抜かれてしまうなら、<b>どんどん増やせばいい</b>ということではないか？</p> <p>ワインツーリズムは、人がいないからこそ行うことで、人の流れを作り、そこで商売している人と繋がりを作り、大学生にはボランティアとして大人と一緒にやってもらうことで、少しでも人を取り込もうとして行っているだけ。  つまり、<u>コミュニケーションの機会を膨大に増やして、少しでも埋め込まれる人ができればいい</u>などと思って行っている。</p> <p>そもそも我々は何のためにするのか？  「どこに対して？」「何に対して？」「なぜ取り組むのか？」</p>

	<p><u>「なぜ」という部分を自覚していないと、実践していくためのモチベーションに繋がらないと思う。</u></p> <p>甲府でのまちづくりにおいて「戦略＝戦い方」を考えて戦っていないといけないと思う。</p> <p><u>面白いことをやっている人は皆戦っている。</u></p>
青木委員長	<p>なぜ、甲府が20代をターゲットにするか →明らかに人口分布図において凹んでいるから。</p> <p>大学生が、大学生のうちにもっと暮らしていけるようなまちを作っていく必要はあると思う。(シェアハウス・企業と力を合わせてマッチングするとか・・・)</p> <p>確かに、現状に対しての意識は大事。</p> <p>ただ、まちづくりにおいて、無駄なプロセスはない方がいい。</p> <p><u>「甲府らしさ」とは何か？</u></p> <p>でも、本日これだけの人が集まっているということは、問題があるからだと思う。</p> <p>データで見ると戻ってきていない、イメージだが、実感としてはどうか？</p>
宮川委員	<p>実感はない。同級生の大半は県外だし、戻ってくるきっかけがない。</p>
五味委員	<p>ワインツーリズムでいいのではないかな？</p> <p>だいたい組み込まれているのではないかな？</p>
青木委員長	<p>大木さんがいうように、弱者であることの自覚が必要で、東京に対抗しても消耗戦になる。</p> <p><u>ここでしかない地域資源を使って、ここだからできることを、しかも、周りがやっていないことをやったということが必要である。</u></p> <p>実際、ワインツーリズムだけでいいのかというと、もしかしたら、穴埋めに別のツーリズムがあってもいいのかもしれない。</p>
大木委員	<p>ワインツーリズムは、選んでもらう手段として、ワインを利用しているだけ。</p> <p>ツーリズムを通して、足りないものを作っていく必要はある。</p>



	<p>例えば</p> <p>交通手段がないから、バスやタクシーを整備する</p> <p>↓</p> <p>【課題】 人がいない、利用者が少ない</p> <p>↓</p> <p>別の手段を考える</p>
青木委員長	<p>宮川さんは、本屋さんだけ、書店の中だけの活動でないのは「文化のツーリズム」なのでしょうね。</p> <p>宮川さんは、なぜ活動されているのでしょうか？</p>
宮川委員	<p>1つは、生き残り戦略</p> <p>もう1つは、人に戻ってきてほしいから</p> <p>今のテーマは、立派すぎて甲府らしくない。</p> <p>どこの都市も当てはまってしまうのでは？</p> <p>テーマのようなまちができれば、人がどんどん来て、誰も文句は言えない都市となるが、それは不可能。</p>
成澤委員	<p>20代女性が減る要因は、</p> <p>① 働く場所がない、キャリアが築ける企業がない</p> <p>② イケメンがいない、東京へ求めてしまう</p> <p><u>20代の女性こそが、実際に人を増やすファンダメンタル</u></p> <p><u>女性の雇用があって、20代の女性が楽しめる場所(カフェなど)</u></p> <p><u>があれば、甲府の発展につながると思う。</u></p>
青木委員長	<p>テーマに「健康的な」が出てくると、今の甲府と比べるとギャップを感じてしまうのかもしれない。</p> <p>伝えるメディアをされている土屋さんは、何かヒントとなるキーワードや、フレーズ、文化などありますか？</p>
土屋委員	<p>直ぐには出ないが、今の甲府の良さが伝わってないだけだと思う。ただ、それを写真や言葉を使ってメディアを作っていかなければならないと思う。</p> <p>大木さんが言っていたように、誰が、何のために伝えるのか、理由やターゲットを明確にして、テーマの言葉はもう少し刺さる言葉を考えていくべきと思う。</p>

	観光客を増やしたいのか、移住者を増やしたいのか。
青木委員長	上杉さんは、何かフレーズやキーワードはありますか？
上杉委員	直ぐには出ないが、 <u>まちの中に人がぜんぜんいないことを肯定に変える言葉</u> <u>あえて甲州弁を使う</u> とか 皆が一つになって、「一生懸命やるぞ」というキーワードがほしい。今の案だと、他人の話のようで心にグサッとささってこない。
青木委員長	もしかしたら、今日欠席の堀切さんだったら、グサッとくるかもしれない。 では、 <u>甲府市民が思う「甲府らしさ」とは何か</u> 、会場からいかがですか？
会場より	甲府の特徴は、東京・大企業・都会などに対する「コンプレックス」 甲府の盆地は京都と比べものにならないくらい綺麗・360度の夜景が見ることができて、綺麗・周りが山に囲われていて、自然や資源があって、東京ともつながれる安心できる盆地だから、「 <u>世界のお盆</u> 」とかコンセプトに
五味委員	コンプレックスは打破する必要はないと思う。 意見が飛び交わない、この状況が“THE 甲府”。 先陣切ったやつが、痛い目をみるという・・・。
安達委員	ちょっと、ここでキーワードについてポジティブな意見として、 <u>『発酵し続けるまち』</u> はどうか？ 発酵は、ワインや味噌のように、いい菌を入れると発酵する。 いい菌があれば物事が変わっていく。 そのために、 <u>いい菌を入れる仕組み</u> が必要。 また、発酵食品は保存がきくように、 <u>持続性があるまち</u> という意味も含めている。
青木委員長	上杉さんの“パワーが出る言葉” 土屋さんの言うように、“言葉は人を動かす”から、 <u>「発酵」のようなテーマは一見狭くなってしまうが、理解しやすいし、スピード感が出ると思うので、1つの案だと思う。</u> 今の安達さんの説明のように背景があると分かりやすい。

	<p><u>ただ、「発酵」はどこの都市に行ってもあるもの。</u></p> <p>“日本一の観光都市“とか付けた瞬間に、 他とは比べられないものになる。 目指しているものが具体的になる。 すごく大事だと思うし、1つの組み立て方かもしれない。 そう考えると、発酵もそうだが、 <b>産業に繋がるものは、まちづくりを行う中で大事なこともかもしれない。ビジネスとして組み立てていくものを考えていかないといけない。</b> フレーズや目指す方向、具体的に見えているものとかは、どうか？</p>
上杉委員	<p><u>「山が近い」</u>っていうのも、よく言われるフレーズ 山に囲まれているけれど、身近にあるもの。 <u>身近にあるものがでてくるのいいかもしれない。</u> そうすると、山を最大の資源とするのはどうか？</p>
青木委員長	<p>山をイメージするとき、「日本一山が綺麗」とか、 リノベーションまちづくりの目指す方向として、アクションにつながるものいい。だから、<u>「発酵」も、アクションにつながるからいいかもしれない。</u> 都市にある山を使って、新しいカルチャーとか産業って何でしょうね？遊び方・暮らし方・トレランとか？ 文化はどうか？ 上杉ビルでのイベントは、空間資源と文化の融合からあの場所が生れている。 馬場さんのように、自分から教育だと思ってやっているのではなく、結果的に教育につながるのだと思う。 堀切さんが、上杉ビルでのイベントについて、「子ども向けのイベントなんて、やめてしまえ」というような書き込みがあった。 <b><u>大人が楽しいイベントには、子どももついてくるし、結果として教育につながっているのかもしれない。</u></b>場を創造するみたいな。 <u>甲府は“濃い”気がする。</u>この濃さを上手く活かさないか？ 山梨の中でも都市部だし、“濃さ”とか、“人”とか、“文化”と</p>

	<p>か、交じり合う感じを伝えていけたらいいと思う。 今感じる、「<u>甲府らしい文化</u>」とかはないか？</p>
上杉委員	<p>「<u>共働き</u>」「<u>社長が多い</u>」とか、<u>仕事と子どもとの距離が近</u>など、<u>山梨に帰ってきて感じた。</u> 子ども達が普段と違う視点で学べたらいいなと思う。 アートであったり、接触であったりが、甲府の中で繰り広げられたら、また明るいビジョンが見えてくるような気がする。</p>
会場より	<p>甲府は、まち全体で色々カバーしてくれやすい、人との距離が近い。 <u>無尽文化で培われたネットワークやコミュニケーションが濃い</u>から<u>無尽蔵な自然・暮らしで、人とのつながり、ゆったりした暮らし、都会にないもの、自然が近くにある暮らしができるのだ</u>と思う。</p>
青木委員長	<p>甲府のひとは、綺麗過ぎる言葉だと違和感を、感じる人達なのかな？</p>
大木委員	<p><u>キーワードに厳しさを入れたらどうか？</u> 例えば、山で言う「険しい」は、3000m級の山で険しいと、荘厳なイメージもあって、美しいという捉え方がある。 我々は、人がいないからこそ店を開き、生き残るのは大変なこと、険しい故に、環境に適合するために、進化しなければならない故に、仲間とワインツーリズムを始められる。 <u>厳しさは悪ではなくて、ストレスがあるからこそ、進化していくのではないかと思う。</u> 狭いが故に、世間が近いという言葉がある。</p>
青木委員長	<p>「険しい」スパイスは確かに必要。 ただ、険しいが言葉に入ってきてしまうと、聞きにくいのか？ でも、険しさを感じるのは大事。乗り越えるとか。 厳しくなかったら、無関心になってしまうかもしれない。</p>
五味委員	<p>「<u>コップ・テン</u>」という言葉があって、「<u>甲府・テン</u>」とはどうか？ 生物多様性とか、甲府は険しいから、こんな生物がいっぱいいるみたいな。</p>
大木委員	<p>発酵も食品をどうやって保存するかという厳しさから生れたし。</p>

成澤委員	<p>人の影、環境、密着度など色々が近いから、  <u>『近いよ！甲府』</u>っていうテーマで、皆に「何？」って思わせる      ようなものでもいいのではないかと思います。</p> <p>スポーツが根付いていて、文化で歴史が染みとおっていると感じ      られることが近い。色々な、多様性の人が隣り合わせにいる。      外国人も障がいを持っている人も、みんな近い距離で住んでい      て、溶け込んでいる。</p> <p><u>だから、『近い』ということには、アレルギーはなし、排除する      世界もないと思う。</u></p> <p>ダサくてもいいのではないかと？</p>
青木委員長	<p>大木さんも周辺の近い農家さんから、野菜をかごと仕入れているし、身近な感じや普段やっていることが、キーワードの方がいい気がする。</p> <p><u>『近接する発酵都市』</u>とか。</p> <p>一緒にやっていることが、理解できた時、アクションにつながる。      平たい言葉だと、無関心や美しいで終わってしまう。      陰しさが入っていたほうがいいのかもかもしれない。</p> <p>今出てきたキーワード「近い」「発酵」      他にありますか？</p> <p>委員の方には、責任を持って言葉を残してほしい。</p> <p>ここで話合ったことが、必ずしもアレルギー反応を起こさないとは限らない。ただ、全員がアレルギー反応を起こさない、文句を言えないような言葉や中心市街地でなくてもよい言葉では、考える意味がない。</p> <p><u>インパクトのある言葉</u>がほしい。</p> <p>リノベーションでエリアを決めたのも、集中的に発酵させる必要があるからで、<u>もっと尖ってて、目指したい世界観があった方がいい。</u></p> <p>例えば「歩く」をキーワードとしてストリートに特化した構想とか。そのストリートが似合う街並みにしたいとか。</p> <p>後は、メディアとしての“伝え方”も大事になってくる。</p>

	<p>「ものさし」はその方向でいいか？ 方向性としてはどうか？他にあるか？</p>
成澤委員	<p><u>発酵は溢れていると思う。</u> 醤油・味噌はどこにでもあると思う。 <u>発酵はありきたりで、発酵にこだわらない方がいいと思う。</u></p>
上杉委員	<p>人との距離感・無尽・チームとしての団結力・山・東京などの近さがあるからこそ、色々な活動が生れて、面白そう。</p>
青木委員長	<p>今日は、構想で大事な部分のピント合わせを行ってきて、<u>アウトラインとテーマとのギャップ</u>があることが分かった。 最終的に、甲府らしいライフスタイルがまちづくりビジョンになると思う。 人と人が近いから、中心部と山間部が近いから、衣食住が近いから、駅から直ぐ山に登れるから、コンプレックスである都心部が近いからこそ、一度出て、戻ってくるし、<u>選択肢の多様性</u>があると思う。 以上で、構想策定委員会は終了した。</p>
5. 閉会	
青木委員長	<p>(最後、青木委員長より) 次回は年明けの1月17日(火)第6回目を開催します。 本日のキーワードを元に、アウトラインに肉付けして、全体像をもう1回出したいと思います。 今後は、商工課が窓口となって、まちづくり構想は、庁内連携をしていき、具体的にどのように肉付けされるか、1/17に出た素案を元に、甲府市で話し合います。 公民連携とは、それぞれの立場での意見を組み合わせて絵を描くことだと思うので、委員の皆さんは、まだ思いつくことがあれば、意見を寄せてほしいし、会場の皆さんもパブリックコメントをフェイスブックなどで、書き込んでください。</p>